



医科大学と同時に設立された附属高校 9年間一貫教育で医学部進学率は9割以上

日本で唯一の医科大学附属高校である川崎医科大学附属高等学校。医学部の学びにつながる高大連携プログラム「ドクターロード」を中心として、川崎医科大学の学長と附属高校の校長にお話を伺いました。

「良医」を育てるための 9年間一貫教育が根底に

竹田 川崎医科大学附属高等学校の最大の特長であり、強みともいえるものは、設立の経緯にあると考えています。創設者である川崎祐宣は、患者に真摯に向き合える「良医」を育成するには、高校時代に人格を磨くことが大切だと考えました。だからこそ、医科大学と同時に附属高校を設立したのです。本校では「豊かな人間性の育成」「健康な身体づくり」「学問の探求」の三つの柱を掲げており、全寮制と相まって、まさに良医をつくるための基礎的な教育を行う高校として設立されたのだと考えています。

砂田 川崎医科大学は、戦後初の私立医科大学として設立されました。当時の国立大学の医学部は、どうしても研究に力点が置かれがちでした。だからこそ、患者を第一に考える、患者本位の医師を育てようと、本学の設立を思い立ったのだと思います。附属高校があることで、創設者が考える人間教育を受けた高校生が2割ほど入学してきます。これはかなり大きな集団で、彼らの姿勢が他の学生に大きな影響を与えています。



左から川崎医科大学附属高等学校校長の竹田義宣先生、川崎医科大学学長の砂田芳秀先生

学校推薦型選抜制度で 9割以上が川崎医科大学へ

竹田 それを可能にしているのが、川崎医科大学への学校推薦型選抜制度でしょう。例年30人程度の推薦枠となっていますが、本校の生徒数は1学年20～30人ほど。ですから校内で競争するのではなく、互いに高め合い、努力していけば、全員合格の可能性がありまし、実際そういう年もあります。その結果、川崎医科大学への進学率は、開校以来90.3%、他大学も含めると、94.3%が医学部に進学しています。

砂田 附属高校の生徒の場合は、入試科目だけでなく、3年間の全科目の成績も参考にしながら総合的に合否を判断しています。附属高校出身の学生も一般入試など他の入試枠の学生も、医師国家試験の合格率に差はありません。学力試験の成績よりも、医師になりたいという強い気持ちと、努力し続けられる力のほうが、その後の成長に大きく関わるからです。附属高校では大学入学後にさらに伸びるような教育を実践されていると思います。



高大連携プログラムとして、体験型授業「ドクターロード」を実施。良医をめざす自覚を育みます

医師としての資質を育む 「ドクターロード」

竹田 そうした教育の柱となっているのが、医科大学との高大連携プログラム「ドクターロード」です。「現代医学教育博物館研修」「医師へのインタビュー」「メディカルスクール・アワー」「医科大学体験実習」「テーマスタディ」などのプログラムで構成されています。これら全体を通して、どういう医師になりたいか、そのために高校で何を大切にするかということをより自覚し、表現し、行動することが目的です。主体的な姿勢が求められる医学部での学びの予行演習的な意味もあると考えています。

砂田 グループワークで率先して行動する学生や、

研究室で5週間、医学研究に取り組む「医学研究への扉」で立派な発表をする学生など、「ドクターロード」の取り組みは、効果的だと実感しています。近年は、附属高校の推薦合格者に対する入学前研修にも力を入れています。医学生が解剖学の導入で行う「骨学実習」を取り入れており、これも非常に効果的だと担当教員から聞いています。

竹田 「ドクターロード」以外にも、全寮制や理科3科目必修制など、良医を育成するための仕組みは豊富にあり、今後もより充実を図っていくつもりです。

砂田 医療の高度化に伴い、医学部での学修量は増えています。だからこそ、伸びしろの大きな、医師になる覚悟をしっかりと持ったフレッシュな現役生を、ぜひ附属高校から多く迎えたいと思います。

学校見学会

日時 11月23日(土) 10:30～12:30

12月25日(金) 10:30～12:30

内容 高校説明/校舎棟・寮見学/個別懇談/入試対策セミナー

卒業生は語る

川崎医科大学医学部2年 久高 唯莉さん

ロールモデルになる医師と出会える「ドクターロード」

現在、川崎医科大学医学部2年の久高唯莉さん。沖縄県出身で、小学2年生の時に女性医師が活躍するテレビドラマを見て、医師を目指したといいます。



小学校・中学校とインターナショナルスクールに通い、県立トップ校への進学を考えていましたが、中学3年生の冬に附属高校の存在を知り、ここなら医科大学へ現役合格が可能だと確信して、数学を中心に受験対策を行い、合格できました。

不安だった寮生活も、1日目に仲のいい友だちと先輩ができて、ホームシックになることもありませんでした。24時間一緒に暮らし、互いの良いところも悪いところも分かったうえで付き合うことになるため、本当に信頼できる人間関係を築くことができました。

全寮制ですから、夜間学習や土曜補習、日曜自習など、恵まれた学習環境があります。私の場合は、特に日曜自習が生活習慣を維持する上で効果的でした。

また、「ドクターロード」には印象深いプログラムがたくさんありました。例えば、自分の耳垢の遺伝子を培養して解析した「医科大学体験実習」は、医学部進学へのモチベーションをより高めてくれました。「卒業生講話会」で出会った整形外科の医師からは、詳しい手術の様子を伺うことができました。何よりも、「あと数十分で手術だから」と足早に去っていく姿に、こんな医師になりたいとの思いを強くしたことを覚えています。

目標は小学生の時の夢である「世界一の外科医」になることです。まずは育ててくれた沖縄で外科医として研鑽を積み、機会があれば国境なき医師団のように、世界でも活躍したいと思っています。

